

1. 事業説明シート

事業名	経営体育成基盤整備事業 (国補)	事業箇所	韮崎市龍岡町	地区名	たづ 龍 がお 岡	事業主体	山 梨 県
<p>(1) 事業の概要</p> <p>①課題・背景 本地区は、韮崎市南部の釜無川右岸に位置する水田地帯である。 地区内の営農状況は、食味が高いと評価を得ている「梨北米」の産地として確立されているが、その一方で、ほ場が狭小なため、大型機械の導入がままならず、地域の担い手への農地の集積が進まないことが大きな課題となっている。 また、地区内農道は幅員が狭く未整備な路線が多く営農に支障をきたしているとともに、用排水路に至っては昭和40年代に地方病溝渠として築造されたため老朽化等により通水機能が低下している。 このような地域の課題を総合的に解決できる区画整理を行い、農地の大区画化や汎用化を進めることで、労働時間・生産費の縮小を図るとともに、担い手への農地の集積を促進させ、経営の大規模化を実現する。</p> <p>②整備目標・効果</p> <p>□主要目標 ○農業生産力の向上 ・農業所得増加額 1,816千円/ha ≧ 703千円/ha以上 ※</p> <p>□副次目標 ○農業用排水能力の向上 ・施設老朽度 (耐用年数30年) - (経過年数46年) = -16年 ≦ 0年 ※</p> <p>・用水能力向上率 (計画用水能力3.12m³/s) ÷ (現況用水能力2.50m³/s) = 1.2 ≧ 1.0 ※ (※評価基準値)</p> <p>□副次効果 ○遊休農地の解消 ○重要プロジェクトとしての位置づけ (やまなし農業ルネサンス大綱)</p> <p>③目標達成の方法 区画整理、農道</p>				<p>④全体計画 (年度別整備内容) (事業費)</p> <p>平成25年度 区画整理 30百万円 平成26年度 区画整理 300百万円 平成27年度 区画整理 550百万円 平成28年度 区画整理、農道 400百万円 平成29年度 区画整理、農道 400百万円 平成30年度 区画整理、農道 320百万円</p> <p>□既整備内容・期間・事業費 ・該当なし</p>			
				<p>(3) 中・長期計画等の位置付け やまなし農業ルネサンス大綱 (H19~H28) 韮崎市第6次長期総合計画 (H21~H30)</p>			
<p>(2) 整備内容と整備量</p> <p>①整備内容 区画整理 57ha、農道 300m ②整備期間 平成25年度~平成30年度 ③総事業費 約20億円 (国費10億円(5.0/10) 県費5.5億円(2.75/10) 市費等4.5億円(2.25/10))</p>				<p>(4) 事業位置等図 省略</p>			

2. 評価シート

(1) 公共関与の妥当性 （行政が行うべき事業か） 妥当・妥当でない	(5) 整備手法の有効性 妥当・妥当でない
(理由) 本地区の整備は、食料・農業・農村基本法に位置づけられている農業の持続的発展、食料の安定供給、多面的機能の発揮に資するものであり、行政が行うべきものである。	(理由) 区画整理により農地の大区画化や汎用化を進めることで、担い手への農地の集積を促進させ、効率的かつ安定的な農業経営を確保するものである。
(2) 事業執行主体の妥当性 （県が行うべきか） 妥当・妥当でない	<input type="checkbox"/> 他 の整備手法の有無 〈有・無〉
(理由) 本地区の整備は、区画整理を実施して農作業の効率化や農業経営の安定化を図るものである。 また、「土地改良法施行令」第50条3項の県営事業で申請すべき事業要件にも合致している。このため県が主体となって行うべきである。	(状況) 水田地帯の生産基盤の整備と経営体の育成・支援を一体的に実施するものであり、本事業の他に適した事業はない。
(3) 経済効率性 妥当・妥当でない	(6) 環境負荷への配慮 妥当・妥当でない
(理由) ・費用(C)=18.4億円(内訳)区画整理17.2億円 農道1.2億円 ・便益(B)=26.6億円 (内訳) 作物生産効果5.8億円 営農経費節減効果13.3億円 走行経費節減効果1.4億円 文化財発見効果1.8億円 水田貯留効果4.3億円 ・費用便益比(B/C)=1.44 ・費用便益比(B/C)は国の採択基準1.0を超えている。	(理由) 本地区は比較的に地形勾配が緩やかであることから、区画整理や農道工事では、土の切り盛り量を少なくするなど、現状の地形に応じた計画とする。 なお、工事による生態系、景観等への影響があると判断された場合には、回避、代替、低減などを踏まえた対策を講ずる。
(4) 事業実施・規模の妥当性 妥当・妥当でない	(7) 事業計画の熟度 妥当・妥当でない
(理由) 地区内の営農条件改善に必要な整備量としている。 <input type="checkbox"/> 同 等施設等(計画を含む)の有無 〈有・無〉 (状況) 既存施設の区画整理であり、機能を代替する施設はない。 <input type="checkbox"/> 必 要整備量の根拠 (状況) 区画整理： 区画の整形、集団化、担い手への集積等農作業の省力化を図るためのもので、作業効率が悪い農地を対象とした。 農道： 区画整理の幹線道路を国道、市道に接続させるもので、最小限の延長とした。	(理由) 本事業は龍岡地区ほ場整備推進協議会が設立されており、関係地権者に対して数回にわたり説明会を開催し、また今後の営農意向を把握するためのアンケート調査を実施するなどして、地域の意向を事業計画に反映している。 また、同推進委員会が主導となり、担い手の確保及び集積促進計画の作成を実施している。 このような取り組みから、事業への合意形成及び工事内容の理解がえられるなど地元の熟度は高い。 《総合評価》 妥当・妥当でない (理由) 7項目全て妥当と評価されることから、実施が妥当と判断する。



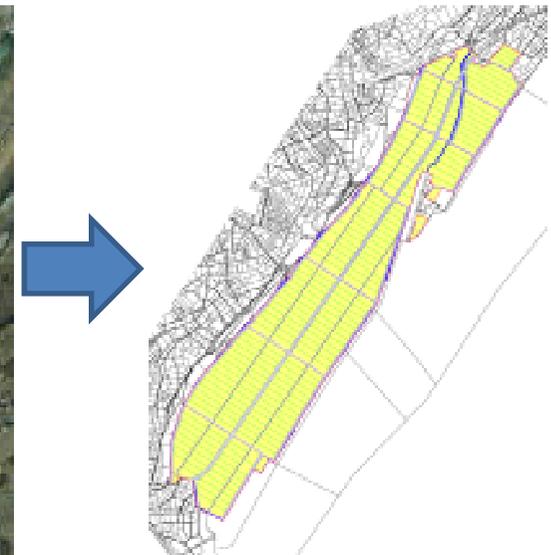
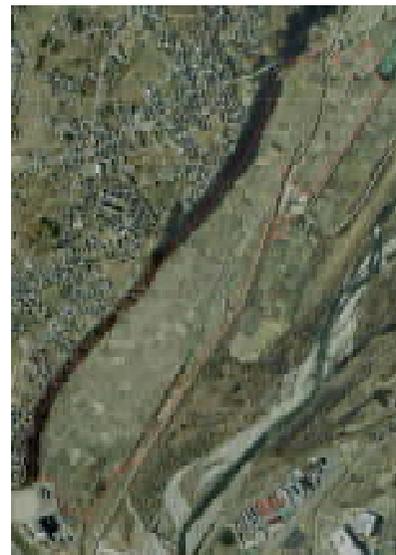
①水路が老朽化で破損し、耕作に支障を来している。



②形状が悪く、排水不良のため耕作放棄地化した農地



③未舗装であり、幅員狭小ですれ違いができない農道



不整形で狭小なほ場を解消する区画整理のイメージ